

## (1) 教育実習から学んだこと 〈8〉

### 授業に興味を持たせる 4 つの目標 (中学 英語)

グローバル教養学部 4年 K.A

私は3週間、さいたま市立J中学校で英語の教育実習をしてきました。この3週間生徒と関わることの大切さや生徒指導の大変さ、授業を行うことの大変さなどを学ぶことができ、有意義な3週間で過ごすことができました。

#### ◇授業の4つの目標

私の行った授業展開は、導入(英語の歌と単語発音ドリル)、前回の復習、本時の展開、まとめという構成です。導入では生徒が歌やペアワークを通して授業に集中することを目標にしており、前回の復習では前回習った文法事項の確認や内容の確認を行い本時の展開に入りやすいようにしました。本時の展開が終わった後のまとめでは本時に習った最重要な事柄をノートに書かせることで、頭を整理することを目標に設定しました。

授業に使用した教材や教具については、英語の歌のCDおよび歌詞(今回はビートルズの obla-di obla-da)、CDプレーヤー、教科書のリスニング用のCD、単語発音ドリルのプリント、ピクチャーカードです。

私は授業を構成していく中で生徒に対する4つの目標を念頭に授業を展開していきました。①飽きさせないこと ②授業に参加しているという自覚を持たせること ③興味、関心を持たせること ④褒めることです。この目標を立てることで生徒の意欲の喚起にもつながったのではないかと思います。

#### ◇英語4技能を取り入れて

まず生徒に飽きさせない授業をするために英語4技能(リスニング、スピーキング、ライティング、リーディング)を取り入れることを考え授業を構成しました。英語4技能を取り入れることで、耳、目、口、手を使うことができ、アクティビティの幅が増えます。様々なアクティビティを取り入れることにより生徒が五感を使いながら飽きないような授業を目指しました。具体的には英語の歌を聴きながら歌詞を見て唄うこと、教科書のCDを聞き、耳から教科書の内容を聞き取ること、ペアワークでお互いコミュニケーションをとりながら英語の発音練習や単語練習をすること、授業中の英問英答で英語を話すこと、問題を解くこと、英作文を作ること、教科書の黙読をして声に出して読むことなどです。このように様々なアクティビティを通じて英語4技能をうまく使わせることで、バランスのよい英語能力を養うことができ、飽きることのない授業展開を心掛けました。

#### ◇問いと問いかけを組み込む

授業に参加しているという自覚を持ってもらうため、授業中の生徒に対する問いかけを多くすること、また良い発問や答えは授業の内容に取り入れながら進めていきました。クラスへの問いかけを多くすることで、生徒は授業中に話す機会を設けられ、その答えをクラス全員でシェアすることができます。これにより生徒自身授業をつくる一員として授業に貢献していることを自覚することができます。

授業に取り組む姿勢が積極的になります。具体的に私の授業では、英語が得意な生徒には少し難しめの英問英答を答えてもらい、英語が苦手な生徒でも今まで習ったことを含めた簡単な質問をして誰でも答えられる質問を何回か授業で行いました。このように英語が得意不得意にかかわらず、全ての生徒が授業に参加しているという自覚を持てるように工夫しました。この時にどんな答えでも受け入れるという授業雰囲気をつくり、誰でも発問できる環境を作ることに努めました。

#### ◇視覚教材の利用で興味を引く

授業の内容に少しでも興味関心を持ってもらうため、視覚教材を使用し興味関心を引き出せるようにしました。本時の授業では、マンガが描いてあるピクチャーカードを見せ、興味を示してもらいました。またピクチャーカードに描いてある絵についての質問をすることで、より一層関心を引くことができ、本時の導入に役立ちました。新出文法を例文を使い説明する時、その例文の内容を、生徒が関心を持てる話題や生徒の生活に沿った内容にするように心掛けました。例文の内容が生活に身近なほど、また自分の興味のあることほど、集中して聞いてくれます。私の行った授業ではテレビや音楽についての例文を出し興味関心を引くよう努力しました。

褒めることに関しては、なるべく全員を褒めるようにしました。例えば発問に答えられた生徒やボランティアで黒板に答えを書いた生徒に対して褒めるのはもちろん、全体として教科書を読む時などうまく声が出せていた時に褒めることをしました。個々人で問題を解いている時は1人ひとりの回答を見て回り、出来ている子を褒めてあげ、出来ない子に対してもヒントを出しながら1問解いてもらい褒めるようにしました。褒めることにより自信を持たせ、勉強に対していい気分を味わってもらうことによりモチベーシ

ョンが喚起出来たのではないかと思います。

公立の中学校では、生徒の勉強に対する得意不得意やモチベーションの差が顕著に出ってきます。様々な生徒の個性に対応し、全員が授業に対して意欲を持ってもらうには、教師が生徒に対して意欲を喚起する手助けをして、勉強の楽しさや学ぶことの素晴らしさを示してあげる必要があります。私はこれら4つの目標を念頭に置きながら授業展開をしました。最初はなかなかうまくいかない面もありましたが、だんだんとこの4つの目標を念頭に授業展開をすることができました。

最後にこのような貴重な経験ができたのも、教育実習生として受け入れてくださった学校の職員の皆さん、特に細やかに夜遅くまで指導してくださった指導教諭の先生のおかげです。この感謝の気持ちを忘れずに、自分の将来に必ずこの経験を活かしていきたいと思います。